

# SDGsの種と子どもたちの心の変化

社会福祉法人エリム会 桑波田みか

## 1. 研究のきっかけ

本交流会に誘われて、今までの実践の振り返りを行う。

## 2. 予想

- 子どもたちが、いろいろある、関わり合っている、限りがある、一人一人大切に、力を合わせて、責任をもつての視点を持ち始める。
- 子どもたちの取り組みへの関りに、進んで参加する態度や他者と協力する力などに変化がみられる。

## 3. 方法

SDGsの種を拾って、子どもたちと実践したことを振り返り、子どもたちの心の変化を探す。

## 4. 取り組み内容

### 園庭をエディブルガーデンに‘責任をもって’

😊 エディブルガーデンには化学肥料を使わないだって。(研修より)

菜園活動(化学肥料)から地域に開かれたエディブルガーデン(無農薬有機栽培)へ

伊予農業高校の生徒さんに教わりブルーベリーの挿し木・鉢上げを行う。



4~5歳児は自分の小さな畑に自分の育てたい野菜の種を蒔いて育てる。

屋上のプールの水をサイフォン効果で園庭の田んぼへ



#### 成果

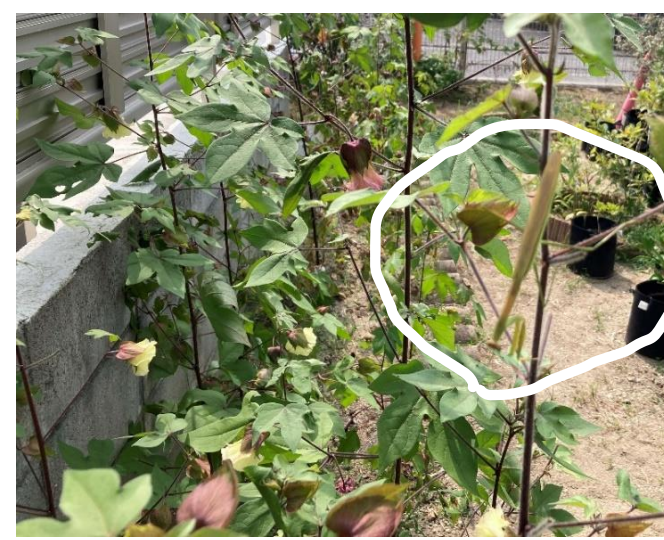
- 発芽・開花・結実の不思議と喜びを言葉で表現した。
- 伊予農業高校の生徒や地域の方々、保護者とも自分たちが育てている野菜を話題にしてコミュニケーションがとれた。
- 自分の野菜に責任を持つ姿が見られた。

避難訓練の炊き出しのうどんに園庭で収穫したサトイモ・ニンジン・ダイコン・シュンギク・ゴボウを入れる。

### 子どもとムシと植物の共生 ‘いろいろある’

😊 地球は人間だけのものじゃない。(マルチスピーシーズ) 研修より

😊 ブロッコリーのアオムシをつぶしたくない。(職員の気持ち)



綿花には何日もチョウセンカマキリが住みついて子どもたちを喜ばせた  
綿花にはハマキムシ  
イタリアンパセリにはキアゲハの幼虫  
ミカンやレモンにはアゲハの幼虫

園庭の田んぼでカブトエビとホウネンエビを探している。

#### 成果

- 子どもは植物よりムシに興味があり、ムシがいると植物に近づいてきて、ムシを大事にした。
- ムシがいると喜びを表現した。

### マイクロプラスチックの回収方法の研究

😊 谷上山へのお別れ遠足の時、プラスチックごみがたくさん落ちているのを見て、「ごみがいっぱい落ちているね。大人が捨てたんでしょ？」



五色浜のごみ拾い。拾ったプラスチックごみでマイクロプラスチックを作り、回収方法の再現実験を行った。

ドイツのフライブルグ市のプラスチック事情をオンラインで聞く。

#### 成果

- 児童クラブにしながら、世界のことに目を向けた。
- 世界の課題について子どもたちと考えたり、話し合ったりした。

### 廃材で遊ぶ。‘力を合わせて’

😊 にじ組のみんなが乗れる船を作りたい。(子どものつぶやき)



#### 成果

- 力を合わせて、4人乗っても沈まない船ができた。
- 段ボール紙・ペットボトル・発泡スチロールなどの廃材を再利用できた。

### 紙を知る。紙を作る。紙で作る。‘限りがある’

😊 トイレtpペーパーを無駄に使う。⇒作って見たら大切さがわかる。

😊 学会で使用するネームプレートを依頼される。⇒手作りの紙で作成。



紙を知るためにえひめ洋紙の社長さんの話を聞く。

紙すきの木枠と網は廃材で手作りした。牛乳パックといろいろな植物を入れて紙をすく。



#### 成果

- 廃材のアップサイクルに成功、充実感を味わった。
- 植物のにおい・紙の手ざわり・自然の美しい色を感じ、言葉にできた。
- 人に喜ばせることの喜びを体験できた。

### 服はどうやってできるか知る。‘限りがある’

😊 世界で一番農薬を使用している作物は綿花だと知った。

😊 担任保育士が綿花や茜や藍を育て草木染をしたい。



藍、ミカンとピワの葉、玉ねぎの皮でクリスマスの劇の衣装を草木染した。

無農薬通期栽培で綿花ができた。

#### 成果

- 実から綿が出てくる不思議を体験した。
- 担任保育士と子どもたちが意欲と喜びを共有した。

## 5. 成果のまとめ

○自分で感じたこと、見つけたことを、言葉にして伝えることが増えてきた。

○活動をしている時は、普段より、他者と協力することができた。

○意欲的ではない、人間関係がうまくいかないなどの子どもたちも興味を持ち、意欲的に取り組む様子が見られた。

## 6. 考察

○職員や他の人が見つけた種であっても、活動の過程で、子どもたちが自らアイデアを出して発信するようになることが分かった。

○子どもたちのつぶやきを見逃さず、それを受け止める(環境を整備)ことが大事だと思う。

○このような活動に、普段より力を発揮するのは、自分たちが住んでいる地球を守るためにしているという気持ちが根底にあるのではないかと感じた。